

る。

Feller および Sternberg は生後 5 週目の小児の第 9 胸椎の椎体に 2 個の分離した骨核を認め、その隔壁は、線維軟骨であり、椎間板と同一構造を呈し脊索の遺存物であることを証明している。この成因として、胎生の初期に胎標の発育が、正常の過程をたどらず、原始結節が遺存し、この部位で脊索が 2 分して、その両側に発育した骨節細胞は、脊索および神経管をつつんで、1 個の原椎に癒合することができず、そのために分離した椎体を生ずるのであると述べている。

原始結節の異常が器官発生にあたえる影響の大きいと蝶形椎体の形態とをあわせ考えるとき、本症の成因として、この説は、最も当をえたものと思われる。

結 語

28 歳の女の第 11 胸椎にみられた蝶形椎体の 1 例を報告し、いささかの文献的並びに成因的考察を加えた。

文 献

- 1) 森：解剖学 V. 発生学，(昭 25)。
- 2) 内村：整形外科：7，3，172，(昭 31)。
- 3) 横倉：骨の X 線診断指針，(昭 28)。
- 4) 吉村：日外会誌，54，1，81，(昭 28)。
- 5) 戸島：岩手医大整形外科教室業績集，1，118，(昭 28)。
- 6) 磯崎：整形外科，8，1，46，(昭 32)。
- 7) 福田：臨床外科，12，12，1047，(昭 32)。
- 8) 内海：外科，13，昭 26。
- 9) 水町：手術，7，228，昭 28。
- 10) 張木：金沢医理学叢書，21，昭 28。
- 11) 神中：脊椎奇形，日整会誌，4。
- 12) 河邨：整形外科，1，昭 25。
- 13) Alexander, B.: Fortschr. Röntgenstr. Erg., 13, (1906)。
- 14) Feller, A. U. Sternberg, H.: Virchow Archiv., 272, 613, (1929)。
- 15) Sereghy, M.: Fortschr. Röntgenstr, 36, 353, (1927)。
- 16) Cunningham: Textbook of Anatomy (1951)。
- 17) Junghanns, H.: Arch. Orthop. und Unfall-Chirurg 38, 1938。
- 18) Schinz et al.: Lehrbuch der Röntgen-Diagnostik. Teil II.

新刊書紹介

Markowitz, Archibold, Downie 著

Experimental Surgery (実験外科学)

東京医歯大教授 浜 口 栄 祐

動物実験手引きの種類は少なくないが、その多くは実験用動物の解剖、習性、飼育、繁殖などに関するもので、手術術式や手術手技に関する記載は全然ないか、あつても極く簡単で、申しわけに付け足した程度のものである。そのなかにあつて Markowitz らの Experimental Surgery は常用実験動物における手術書であつて、特に各種の手術術式とその手技を詳細に記載している点では類書にその比を見ないものである。今回改版の第 4 版(1959)を手にしたので、旧版(第 3 版 1954)と比較対照してみたところ、かなり書き改められていることが判つた。それは主として次のような点である。

旧版は 32 章 851 頁であるが、新

版は 35 章 931 頁で、約 10 % 増頁である。始めの 32 章の項目は旧版と殆んど変りがないが、そのうち第 7 章では Physiological Effects of Reversal of Peristalsis の項目が加わつて胃腸の切除術や吻合術の種々の術式、小腸や大腸の広範囲切除術などの後の消化管運動の変化をレントゲン連続撮影で追究している。第 21 章移植術では各臓器組織の移植に関して特に筆を加え、新項目も加わつて一層詳しいものとなつた。第 26 章心臓の手術は殆んど全く新しくなり、第 28 章自律神経系も随分加筆されている。新しく追加されたのは第 33 章前立腺、第 34 章冬眠および低体温法、第 35 章中枢神経系である。これら加筆増補されたのは最近

の外科手術における急激な進歩を採り入れたもので、時宜に適した改版というべきである。

挿図は 580 図、大部分は旧版のものが採用されているが、余りに模型化したものは実物に近く描き直され、やや不鮮明だつたものは版を改めたりして旧版よりは鮮明になつた。また色刷りや天然色写真版もかなり多数使用され、理解を容易にしている。

本書は大学、研究所、大病院など動物実験を行う施設には是非備えて置くべきである。外科に限らず、どの科にも参考となるものである。

(A 5 判 931 頁 5,000 円)

The Williams & Wilkins 社発行

医学書院洋書部扱